

学校番号	学校名	校長名
89	川崎市立中野島小学校	今 広道

学校教育目標	今年度の重点目標
<p>学校教育目標を本校のめざす子ども像の具現化と捉え、児童の実態や学年の発達段階に応じた取り組みを工夫し、きめ細かい指導や教育活動の充実を図る。</p> <p>【本校のめざす子ども像】</p> <p>①「なかよく学ぶ子」・・・友だちとの認め合い学び合いを大切に授業づくり。主体的、対話的で深い学びをめざした教育課程の実践する。</p> <p>②「考えて行動する子」・・・道徳教育の充実と自立心や規範意識高揚に向けた児童指導の実践する。</p> <p>③「のびのびとたくましい子」・・・健康や体力向上を図る活動の充実を図り、安心安全な生活への意識高揚を推進する。</p> <p>④「自然を愛し、思いやりのある子」・・・自然環境や動植物への関心を高め、身の周りの生命尊重や地球環境等を思いやる考えや思いを伸長する。</p> <p>⑤「まじめに最後までがんばる子」・・・勤労意識や地道に最後まで物事を粘り強く成し遂げる姿勢を養育の基盤とする。</p>	<p>「基礎基本の定着」「確かな学力の育成」をめざし、「よくわかる授業」「生き生きと学ぶ楽しい学習」を進める。また、子どもたちが「安心・安全な学校生活」を送るために、安全指導や防災教育、道徳及び命・心の教育、共生共育等に重点を置き、児童支援活動の充実を図り、子どもたち同士が互いに尊重し合い、協力し合っ活動する学校づくりに取り組む。</p> <p>(1)「基礎・基本の定着」を図る。 (2)「確かな学力の育成」に取り組む。 (3)「よくわかる授業」「生き生きと学ぶ学習」等の授業づくりに取り組む。 (4)「安心・安全な楽しい学校生活」に向け、児童支援体制の充実を図る。</p>

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1	<p>①なかよく学ぶ子</p> <p>(1)基礎・基本の定着 (2)確かな学力の育成 (3)よく分かる授業・生き生きと学ぶ学習</p>	<p>○少人数指導や協力指導については、校内組織体制を構築することで機能的に実践することができた。少人数指導(4年)は、習熟度別指導についての指導法改善をもっと研究していく必要がある。</p> <p>○取り出し指導や入り込み指導は、要望が多数あるが、指導者の人材不足で十分実施することができなかった。</p> <p>○外国語・英語活動を先行実施することができたが、担任が中心になって実践できるよう研修が必要である。</p> <p>○教材研究日を設け、放課後の時間で教材研究や校内研修を行い、その成果が授業づくりに生かすことができたと捉えている。ただ、取り組むべき内容が多く、さらに継続した実践が必要と考えている。</p> <p>○主体的・対話的で深い学びについての職員研修を行い、教職員の認識を深めることができた。</p>	<p>○少人数指導における習熟度別指導について、年間指導計画に明記し、計画的に取り組めるようにする。</p> <p>○取り出し指導を4年生以下の学年で集中的に実施することで低学年から学習の遅れに対応した指導を行う。</p> <p>○3・4年生の外国語活動の指導をT・Tで指導する専任の職員を配置する組織体制とする。</p> <p>○教材研究日を定期的に設け、職員研修の活性化を図る。校内職員の教え合い、学び合いによる授業力向上をめざす。</p> <p>○児童の話し合い、活動や表現活動の在り方について外部講師を招くなどの職員研修を実施する。</p> <p>○小学校教育研究会や総合教育センターの教育課程授業研究や研修内容を実践的に校内に報告する機会を設ける。</p>
2	<p>②考えて行動する子</p> <p>(2)確かな学力の育成 (3)よく分かる授業、生き生きと学ぶ学習 (4)安心・安全な楽しい学校生活</p>	<p>○読書活動を定期的に行い、児童の情操や思考判断を高めることができた。図書室利用も多く、文章を読み、考える力が育っている。さらに、図書室活用活性化を図ることが課題である。</p> <p>○コロナ禍の中でも工夫して、日常の音楽授業や音楽活動、中小ステージなどの催しを通して、音楽に親しみ情操教育の充実を図ることができた。</p> <p>○規範意識が高く、落ち着いた行動で生活できる児童が増えている。特に高学年の児童によく考えて行動する雰囲気があり、大きな成果を得ている。</p> <p>○共生共育の実践や児童支援コーディネーターによる支援体制が充実し、いじめや不登校等の課題に対しても、適時、迅速に対応することができた。</p>	<p>○読書活動の充実に向けて、さらに取り組みを継続していきたい。学校司書や図書担当の職員を中心に、子どもたちの図書室利用を活発にする方策を検討する。</p> <p>○キャリア在り方生き方教育の実践を進め、将来の夢や希望を育む教育活動を進める。</p> <p>○中小ステージ等の催しを継続し、音楽指導や道徳及び教科の指導を通して、情操教育や表現力を育む。</p> <p>○さらに安心・安全な学校生活を送るために、「中野島小のやとくそく」についても、児童が自ら積極的に守ろうとする規範意識を高める活動を行っている。</p> <p>○児童会活動による自主的な活動「あおいほこ運動(あいさつ運動)」「あかひみ運動(安全運動)」を活性化させる。</p> <p>○人権尊重教育・福祉教育等の充実を図る。</p>
3	<p>③のびのびとたくましい子</p> <p>(3)よく分かる授業、生き生きと学ぶ学習 (4)安心・安全な楽しい学校生活</p>	<p>○体育授業における運動量の確保や関わり合いを大切に授業づくりを進め、児童の体力向上や運動能力の向上を図ることができた。</p> <p>○キャリアタイムや体力テスト、スポーツフェスタ等の取り組みを組織的に運営し、児童が主体的に関わり、進んで体力向上に取り組むことができるよう、実践することができた。</p> <p>○感染防止対策、保健指導や健康管理に関する学習の充実を図り、手洗いや正しい食生活などの取り組みを児童が主体的に取り組む、その成果があらわれた。</p> <p>○防災、防犯教育や交通安全教室等について、計画的に実施し、学習の充実を図ることができた。</p>	<p>○体育授業に向けた準備や学習計画を学年内で教材研究を行い、児童が生き生きと運動し、体力向上を図ることができる授業づくりを進める。</p> <p>○キャリアタイム、スポーツフェスタ等の活動を職員の組織的な連携で計画し、今後も児童が主体的に関わりながら実践することができるようにする。</p> <p>○保健安全指導の充実を図り、児童会の活動に安全指導を取り入れながら、健康安全に向けた意識向上を図る。</p> <p>○防災、防犯、交通安全等について、各学年の実態に応じて、適時行い、避難訓練等の学校全体の取り組みも、さらに工夫し、充実を図る。</p>
4	<p>④自然を愛し思いやりのある子</p> <p>(2)確かな学力の育成 (3)よく分かる授業、生き生きと学ぶ学習</p>	<p>○生活科や理科、総合的な学習を各学年の指導計画に沿って体験的に実践し、経験や体験に基づいた確かな学力を育てることができた。</p> <p>○地域の協力で梨づくりや野菜栽培に取り組むことができ、児童にとっても貴重な経験となった。</p> <p>○各学年の校外学習を計画するにあたり、日程の調整等に多少困難はあるが、実際の体験や経験が子どもたちにとっては、教育的効果が大きいと把握している。</p> <p>○コロナ禍ではあるが工夫して、植物の栽培や地域学習を通して、福祉や命・心の教育の推進を図ることができた。</p>	<p>○校外学習の時期や日程調整、学習内容等を見直し、有益な学習を継続できるよう配慮する。場合によっては、リモートで行える見学等も取り入れるようにする。</p> <p>○地域や学習協力者のリストを作成し、地域や学習協力者、校外学習機関等との連絡が丁寧に進められるようにする。</p> <p>○地域や自然を題材にした学習の進め方を工夫し、より一層児童が主体的に関わり、興味関心を持って学習に取り組めるように、さらに工夫を加えながら充実した活動を実施する。</p> <p>○道徳教育を通して、思いやりや優しさ、郷土愛などについての豊かな心を育む。</p>
5	<p>⑤まじめに最後までがんばる子</p> <p>(2)確かな学力の育成 (4)安心・安全な楽しい学校生活</p>	<p>○全学年で基礎的・基本的な学習に粘り強く取り組み、最後まで成し遂げる経験を積み重ねる取り組みを行うことができた。</p> <p>○放送朝会での講話や児童指導、学級指導で真面目に取り組むことの大切さや一人ひとり目標を持って自分自身を高めることの意識喚起を図ることができた。</p> <p>○給食指導や清掃指導、学校生活のきまりなどを守る学級指導を丁寧に行い、学校全体として落ち着いた学校生活の実現を図ることができた。</p>	<p>○基礎・基本の定着をめざすとともに、児童が自ら粘り強く目標や課題に向かって学習に取り組む、達成感を味わうことのできる授業づくりを進める。</p> <p>○スポーツフェスタや中小ステージなどの学校行事や学年の行事で、児童が主体的に運営や進行に関わり、協力し合って催しを成し遂げる取り組みの充実を図る。</p> <p>○学校や社会のきまりを守る意識を育む。自尊感情を高め、児童が自信をもって行動できるよう支援する。</p> <p>○清掃や給食指導、係活動や委員会活動の充実を図る。登下校の安全や防災、防犯、交通安全の指導を継続する。</p>
6			
7			
8			

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<p>本校の今年度の教育活動の状況を学校関係者から評価いただいた。3年間コロナ禍ということで、紙面でのやり取りが中心となっていたが、今年度は校長室で対面で行うことができた。内容としては、児童の様子や学校全体として落ち着いたことや高学年に従い、自覚が高まり、学校としてバランスよく教育活動の成果が表れていると成果を認めていただいている。ただ、挨拶の面では、まだ十分ではなく、校外で交通指導員さん等に向けて、元気づけて進んで挨拶ができる子どもが少ないとの指摘を受けたことを踏まえ、今年度も、正門には校長と事務員、東門には用務員が毎朝校門に立ち登校の様子と挨拶の声をかけてきた。自ら挨拶する子どもが少しずつではあるが増え始め効果を感じている所である。今後も学校関係者の意見を取り入れ、次年度の取り組みに生かしていきたい。</p>	<p>学校教育目標の具現化に向けて、教職員が連携協力し合っ取り組みの充実を図ることができた。今年度は本来の開かれた学校にどのようか課題になっていたが、PTA主催のふれあい祭りを復活させることができ、学校、PTA、地域の一体感を味わうことができ、中野島小らしいコロナ禍前の雰囲気を醸成した。今後は、世の中や近隣校の動向も踏まえながら今の時代に合ったよりよい関係を保護者、地域と築いていきたい。現行指導要領の確かな理解と指導と評価の一体化をどのように進めていくかは課題である。令和4年度1月の社会科の推進校の研究報告会の達成感から継続して社会科の研究を行い授業力向上を目指してきた。さらによりよい教育活動を行っていききたいという思いが高まってきている。特に若手の授業向上が顕著であった。落ち着いた学校生活を引き続き送るための学年、学級指導を充実させながら、子どもたちが安心・安全で楽しい学校生活を送ることができるよう取り組んでいきたい。今年度は年度当初に立てた教育活動をほぼ変更なく実施することができた。能登半島地震を教訓に防災対策等の危機管理も踏まえた教育計画を立て、来年度も年間を通して安定した教育活動を行ってきたい。</p>